

ファンド
レポート

～成長企業の再評価はこれから～

- リーマンショック後に、東証株価指数(TOPIX)※が安値をつけた2009年3月以降、当ファンドのパフォーマンスは市場平均を大きく上回る実績を積み上げてきました。
- 中長期的な利益成長の観点から投資した中小型銘柄が、パフォーマンスに貢献しています。
- 成長戦略の効果実現、企業収益の拡大期待などを背景に中期的に堅調な市場展開を想定しています。

※TOPIXは、当ファンドのベンチマークではありませんが、市況推移の参考として掲載しています。

当ファンドは株式市場を大きく上回るパフォーマンスを実現

当ファンドでは、市場環境の変化を踏まえつつ、企業の成長と業績拡大ポテンシャルに着目した銘柄選定を一貫して行い、株式市場を大きく上回るパフォーマンスを達成しています。

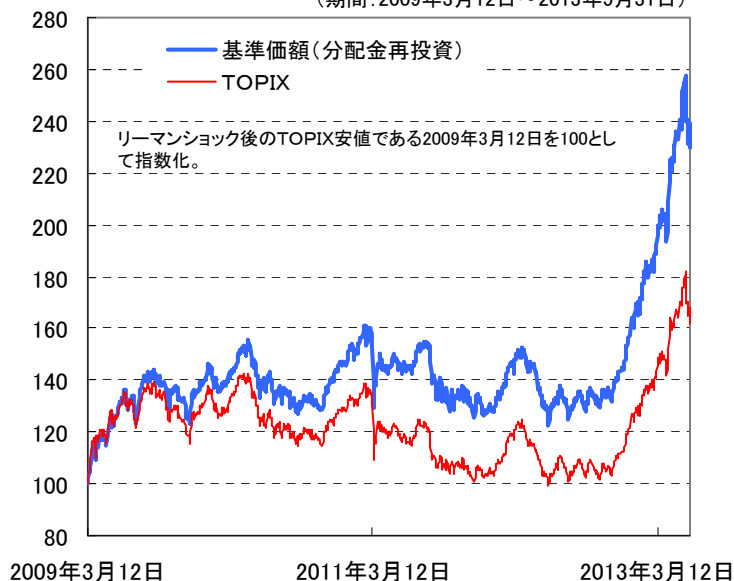
リーマンショック後にTOPIXが安値をつけた2009年3月12日を起点とすると、2013年5月末までにTOPIXは62%の上昇となったのに対し、当ファンドの基準価額(分配金再投資)はそれを大きく上回る、130%の上昇となっています。

成績が良好なファンド『ブルーム』の投資コンセプトは「成長」であり、主に以下の3つの観点から、投資銘柄を選定しています。

- ①『成長の基盤』
- ②『スマートな成長』
- ③『成長のファクター』

《ブルームの基準価額とTOPIXの推移》

(期間:2009年3月12日～2013年5月31日)



《投資コンセプトと組入銘柄例》

投資コンセプト(銘柄選定の主な観点)	銘柄名(銘柄コード)	注目点
成長の基盤 (商品の独自性・将来性など)	マツダ(7261)	新世代技術「スカイアクティブ」に独自性と将来性を見出せる。同技術によりハイブリッド車と同等レベルの燃費を実現。
スマートな成長 (効率を損なわない成長など)	エイベックス・グループ・ホールディングス(7860)	アーティストやコンテンツ関連ビジネスを総合的に展開。高い競争力を持つ自社コンテンツが成長の源泉。スマートフォン向け映像コンテンツをTVでも視聴可能にしたことでサービスの魅力が拡大。
成長のファクター (ブランド力など)	コマツ(6301)	成長地域であるアジアのサービス網構築でキャタピラーに先行。現地生産の推進や強いブランド力などにより、アジアでも高い収益力を誇る。

・上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。また、ファンドが実際に投資する銘柄とは異なる場合があります。

・上記は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。
 ・本見通しなしい分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動・運用成果等を示唆・保証するものではありません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ 日本成長株オープン【愛称:ブルーム】

中長期的な観点から投資した小型銘柄がパフォーマンスに貢献

■エムスリー(銘柄コード:2413)

『スマートな成長』の観点で注目

膨れ上がる医療財政の問題に対しインターネットを活用した製薬会社向けマーケティング支援サービスや、医療従事者専門サイト等を運営し、不必要な医療コストを1円でも減らすこと(治療費を低く抑える等)の実現を目指している企業です。

■朝日インテック(銘柄コード:7747)

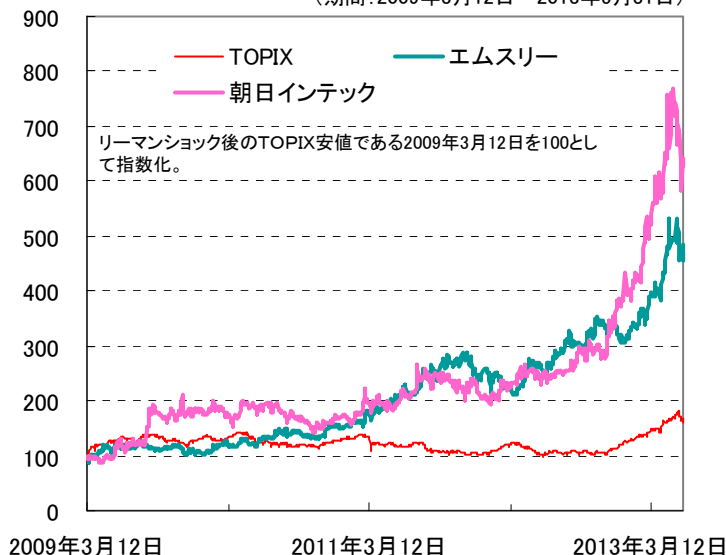
『成長の基盤』の観点で注目

患者の身体的負担が少なく、回復も早くなる「低侵襲医療」が拡大する中、同社は「低侵襲治療製品を機軸とし、開発から製造・販売までトータルサポートできるグローバル医療機器企業へ」をテーマとしています。また、著名な医師達に支持され、海外売上高の更なる拡大が期待される企業です。

今後も中長期的な観点から銘柄を選別投資する方針です。

《TOPIXと組入銘柄の株価推移》

(期間:2009年3月12日~2013年5月31日)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

・上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。また、ファンドが実際に投資する銘柄とは異なる場合があります。

成長戦略を追い風に、日本株式市場は堅調な展開を想定

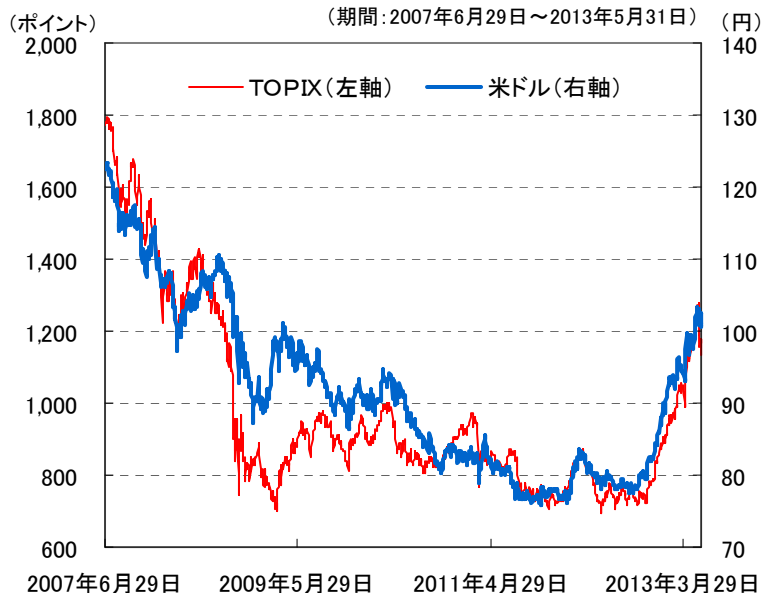
2012年12月、金融緩和によるデフレ脱却と成長戦略を標榜した安倍政権の発足を契機に市場の雰囲気は大きく変貌し、株高・円安の流れが定着しました。

2013年4月、黒田日銀新総裁の下で発表された「異次元の金融緩和」は、アベノミクスの1本目の矢として市場に大きなインパクトを与えました。これにより、主要通貨に対する円安が一段と進むとともに、株式市場も大幅に上昇する展開となりました。

足下の市場の下落局面は、急ピッチな上昇の反動で、過熱感解消のための健全な調整と考えます。今後は現政権の安定と日銀の強いコミットメント継続のもと、株式市場は徐々に堅調な展開になると想定しています。また、円安による企業業績へのプラス効果が下期以降に現れてくることも、期待材料の一つです。

《TOPIXと米ドル(対円)の推移》

(期間:2007年6月29日~2013年5月31日)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

■東証株価指数(TOPIX)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、TOPIXに現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

・上記は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。
・本見通しな分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動・運用成果等を示唆・保証するものではありません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

三菱UFJ 日本成長株オープン【愛称:ブルーム】

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

わが国の株式を主要投資対象とし、ボトムアップ・アプローチを基本としたアクティブ運用により、長期的に安定した値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色

「ブルーム」の運用手法...足と頭を使って、スマートな成長を実現する方程式を見出すことをめざします。

銘柄選定の主な観点

- ・成長の基盤: 企業の成長のインフラ(基盤)、事業のストラクチャーを見極めます。
- ・スマートな成長: 成長に根拠や計算があるかどうかを見極めます。
- ・成長のファクター: 成長のファクターが明確であるかを見極めます。

<主な投資制限>

- ・株式への投資割合に制限を設けません。
- ・同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定します。

<分配方針>

- ・年1回の決算時(4月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

市場リスク

(価格変動リスク)

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

(ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ投信株式会社

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社(購入・換金の取扱い等)

後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 ...三菱UFJ投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会 一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJ 日本成長株オープン (愛称:ブルーム)
手続・手数料等
お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
購入代金	販売会社の定める期日までに販売会社指定の方法でお支払いください。
換金単位	1万口単位または1口単位 販売会社の取扱いにより単位が異なります。 / 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額 - 信託財産留保額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた購入・換金のお申込みを当日のお申込み分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みみに制限を設ける場合があります。 なお、1億口または1億円以上の換金のお申込みについては正午までにお願います。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	無期限 (1999年4月28日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。
決算日	毎年4月20日 (休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上、株式投資信託として取り扱われます。

ファンドの費用・税金
・ファンドの費用
【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

お客さまが直接的に負担する費用	
購入時	
購入時手数料	購入価額 × 2.625% (税抜 2.5%) (上限) 販売会社にご確認ください。
換金時	
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額 × 0.3%
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用	
保有期間中	
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額 × 年1.6275% (税抜 年1.55%)
その他の費用・手数料	売買委託手数料等を信託財産からご負担いただきます。 これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

運用管理費用 (信託報酬) は毎日計上され、毎計算期間の6ヵ月終了日および毎決算時または償還時に信託財産から支払われます。その他の費用・手数料は、その都度信託財産から支払われます。

購入時手数料、運用管理費用 (信託報酬) およびその他の費用・手数料 (国内において発生するものに限り、) には消費税等相当額が含まれます。

お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

・税金

個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となることがあります。詳しくは投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。 / 販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。 / 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。 / 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書 (交付目論見書) 等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料です。 / 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。 / 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。 / 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(ご購入の際には、必ず投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。)

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**
受付時間 / 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・12月31日 ~ 1月3日を除く)

< オフィシャルサイト > <http://www.am.mufig.jp/>
< モバイルサイト > <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
基準価額・分配金をメール配信 (*メール配信対象外ファンドもあります。)



